

第3章 火災種別ごとの状況

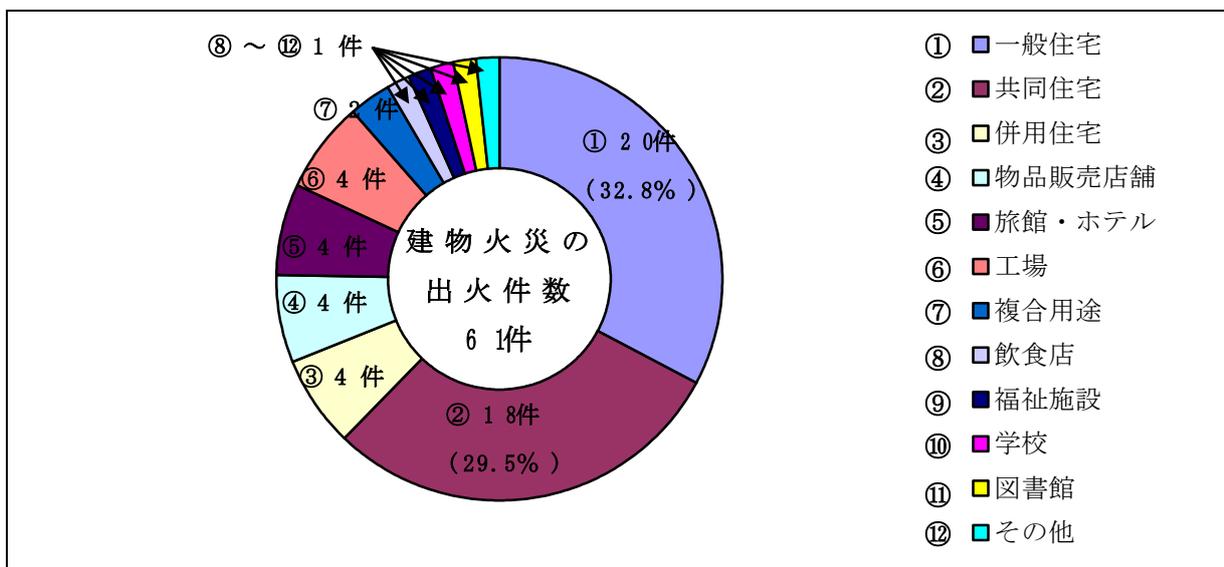
1 建物火災

(1) 火災の現況

平成21年中の建物火災の出火件数は61件で、このうち、住宅（一般住宅、共同住宅及び併用住宅）火災は、42件で、建物火災の68.9%を占めている。

住宅火災の内訳は、一般住宅が20件と最も多く、47.6%を占め、次いで、共同住宅が18件（42.9%）、併用住宅が4件（9.5%）となっている。

図3-1-1 建物火災の火元建物用途別の状況



(備考) その他は、積みわらから延焼した物置。

ア 建物火災の43.3%が木造建築物

平成21年中の建物火災を、火元建物の構造別にみると、木造建築物が26件と最も多く、建物火災の43.3%を占めている。

火元建物の構造別に火災1件当たりの焼損床面積をみると、全建物火災の平均は27.4㎡であるが、木造建築物は52.8㎡と最も広くなっている。

火元建物の構造別損害状況は、表3-1-1に示すとおりである。

表 3 - 1 - 1 火元建物の構造別損害状況

構 造 別	出 火 件 数 (件)	延 焼 率 (%)	延 焼 件 数 (件)	1 件 当 たり 焼 損 床 面 積 (㎡)
木造建築物	26	26.9	7	52.8
防火構造建築物	0	0.0	0	0.0
準耐火建築物(木造)	0	0.0	0	0.0
準耐火建築物(非木造)	4	0.0	0	16.0
耐火建築物	24	0.0	0	8.6
その他の建築物	6	0.0	0	0.0
建物火災全体	60	11.7	7	27.4

- (備考) 1 延焼件数は、火元建物以外の別棟に延焼した件数を表す。
 2 延焼率は、火元建物以外の別棟に延焼した件数の割合を表す。
 3 建物火災61件中1件は、積みわらからの延焼のため60件での割合で表す。

イ 建物火災は「放火」によるものが多い

平成21年中の建物火災の主な出火原因は、「放火・放火の疑い」によるものが21件と最も多く、34.4%を占めている。次いで、「こんろ」の10件(16.4%)、「たばこ」の6件(9.8%)の順となっている。

(2) 住宅火災

ア 住宅火災の現況

平成21年中の建物火災61件のうち、68.9%の42件を占めている住宅火災をみると、平成20年中の68.5%(建物火災54件のうち、住宅火災37件)とほぼ同じ構成比で推移している。

イ 全焼が2件増加

平成21年中の住宅火災を焼損程度別にみると、全焼が9件、半焼が2件、部分焼が8件、ぼやが23件となっており、前年に比べ全焼及び半焼が2件、ぼやが6件増加し、部分焼が5件減少している。

焼損床面積は690㎡、焼損表面積は244㎡と前年に比べ大幅に増加している。

住宅火災の状況は、表 3 - 1 - 2 に示すとおりである。

表 3 - 1 - 2 住宅火災の状況

平成	合計	住宅火災				焼損床面積 (㎡)	焼損表面積 (㎡)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
		全焼	半焼	部分焼	ぼや					
17	45	6	7	15	17	650	259	72,320	2	18
18	34	3	0	13	18	405	102	48,957	1	30
19	38	5	2	11	20	799	17	88,667	2	11
20	37	7	0	13	17	741	90	118,450	2	12
21	42	9	2	8	23	1,431	334	152,203	3	14

ウ 損害額は約 3,400万円増加

平成 21 年中の住宅火災の損害額は、前年に比べ 3,375 万 3 千円増加し、1 億 5,220 万 3 千円で、住宅火災 1 件当たりでは 362 万 4 千円となっている。

エ 住宅火災は「放火」によるものが多い

平成 21 年中の住宅火災の出火原因をみると、「放火・放火の疑い」によるものが 11 件と最も多く、26.2% を占め、前年に比べ 6 件の増加となっている。次いで、「こんろ」が 8 件（19.0%）、「たばこ」が 5 件（11.9%）となっている。

住宅火災の出火箇所をみると、居室が 16 件と最も多く、38.1% を占めている。次いで、台所が 9 件（21.4%）、階段室が 3 件（7.1%）となっている。

平成 21 年中の住宅火災の出火原因及び出火箇所は、表 3 - 1 - 3 に示すとおりである。

表 3 - 1 - 3 住宅火災の出火箇所及び出火原因（単位：件）

出火原因	合 計	出 火 箇 所							
		台 所	居 室	階 段 室	廊 下	押 入 ・ 納 戸	ベ ラ ン ダ	敷 地 内	そ の 他
放 火	11	0	2	3	2	0	1	1	2
こんろ	8	7	0	0	0	0	0	0	1
たばこ	5	0	3	0	0	2	0	0	0
火遊び	3	0	1	0	0	0	0	0	2
電 灯	2	1	1	0	0	0	0	0	0
不 明	4	1	2	0	0	0	0	0	1
その他	9	0	7	0	0	0	1	0	1
合 計	42	9	16	3	2	2	2	1	7

（備考）「放火」には、「放火の疑い」を含む。

表 3 - 1 - 4 住宅火災の出火原因（単位：件）

出 火 原 因	平成 20年	平成 21年	増減数
放 火	5	11	6
こんろ	11	8	△ 3
たばこ	5	5	0
ストーブ	3	0	△ 3
火 遊 び	2	3	1
電 灯	2	2	0
不 明	1	4	3
そ の 他	8	9	1
合 計	37	42	5

（備考） 1 △は減少を表す。

2 「放火」には、「放火の疑い」を含む。

オ 初期消火成功率は63.3%

平成21年中の住宅火災における初期消火の状況をみると、住宅火災42件のうち30件で初期消火が行われており、初期消火率は71.4%となっている。また、30件の初期消火のうち19件で初期消火成功となっており、成功率は63.3%となっている。

住宅火災における初期消火の状況は、表3-1-5に示すとおりである。

表3-1-5 住宅火災の初期消火の状況

初期消火内容	実施数 (件)	成功数 (件)	成功率 (%)
粉末消火器	14	7	50.0
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	11	6	54.5
寝具、衣類等をかけた	3	3	100.0
もみ消す	2	2	100.0
合計	30	19	63.3

カ 死者3人、負傷者14人の発生

平成21年中の住宅火災による死者数は3人で、前年に比べ1人の増加となっている。死亡に至った経過をみると、放火自殺が1人、逃げ遅れが2人となっている。

平成21年中の住宅火災による負傷者数は14人で、前年に比べ2人増加となっている。受傷理由別にみると、「煙を吸う」が9人、「火炎にあおられる等」が4人、「飛散物・擦過」が1人となっている。

(3) 査察対象物火災

ア 査察対象物火災は建物火災の55.7%

平成21年中の建物火災61件のうち、55.7%の34件を占めている査察対象物（第3種査察対象物以上の対象物）火災をみると、全出火件数の27.2%を占めている。また、前年と比べると9件の増加となっている。

イ ぼやが61.8%

平成21年中の査察対象物火災を焼損程度別にみると、全焼が1件、半焼が1件、部分焼が11件、ぼやが21件となっており、査察対象物火災の61.8%を占めている。

査察対象物火災の現況は、表3-1-6に示すとおりである。

表 3 - 1 - 6 査察対象物火災の現況

政令用途		合計 (件)	焼 損 程 度 (件)				負 傷 者 (人)
			全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や	
3 項 口	飲食店	1	0	0	1	0	0
4 項	物品販売 店舗	4	0	0	0	4	0
5 項イ	旅館 ホテル	4	0	0	3	1	1
5 項 口	共同住宅 寄宿舍	16	1	0	5	10	11
6 項 口	各種福祉 施設	1	0	0	0	1	0
7 項	学校	1	0	0	0	1	0
8 項	図書館 博物館	1	0	0	0	1	0
12 項イ	工場 作業場	4	0	0	1	3	0
16 項 口	非特定 複合用途	2	0	1	1	0	0
合 計		34	1	1	11	21	12

(備考) 防火対象物を、春日井市予防査察規程において特別
第 1 種、第 1 種、第 2 種及び第 3 種に査察対象物として
区分したものをいう。

ウ 査察対象物火災は「放火」によるものが多い

平成 21 年中の査察対象物火災の主な出火原因は、「放
火・放火の疑い」によるもの 17 件と最も多く、50.0%
を占めており、前年に比べ 11 件の増加となっている。
次いで、「こんろ」が 6 件 (17.6%)、「たばこ」及び「電
気装置」が 3 件 (8.8%) となっている。

査察対象物火災の出火原因は、表 3 - 1 - 7 に示す
とおりである。

表 3 - 1 - 7 査察対象物火災の出火原因 (単位：件)

用途別 出火原因別	合 計	3 項 口	4 項	5 項 イ	5 項 ロ	6 項 口	7 項	8 項	12 項 イ	16 項 口
		飲 食 店	物 品 販 売 店 舗	旅 館 ・ ホ テ ル	寄 宿 舎 ・ 共 同 住 宅	各 種 福 祉 施 設	学 校	図 書 館 ・ 博 物 館	工 場 ・ 作 業 所	非 特 定 複 合 用 途
放 火	17	0	4	3	8	0	0	0	1	1
こ ん ろ	6	0	0	0	4	0	1	0	0	1
た ば こ	3	0	0	1	2	0	0	0	0	0
電 気 装 置	3	0	0	0	1	0	0	1	1	0
電 気 機 器	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
煙 突 ・ 煙 道	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0
不 明	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0
合 計	34	1	4	4	16	1	1	1	4	2

(備考)「放火」には、「放火の疑い」を含む。

(4) 住宅火災の出火事例

出火事例 「仏壇のローソクから出火した火災」

り災建物 木造瓦葺き一部瓦棒葺きトタン張り一部モ
ルタル塗り平屋建て住宅兼2階建て事務所

焼損程度 全焼

火災概要 本火災は、仏壇のローソクの火が倒れ、造
花に接触し出火したものである。

写真3-1-1 「建物が激しく炎上している状況」



写真3-1-2 「焼損した仏壇の状況」



(5) 査察対象物火災の出火事例

出火事例 「煙道から出火した火災」

り災建物 木造鉄板葺きサイディングボード張り平屋
建て飲食店

焼損程度 部分焼

火災概要 本火災は、厨房の煙道が建物壁部分の下地の
木板ボードに接触していたため、木板ボ
ードに着火し、出火したものである。

写真3-1-3 「建物が延焼している状況」



写真3-1-4 「焼損した外壁の状況」



2 車両火災

(1) 火災の現況

平成21年中の車両火災の出火件数は12件で、全出火件数の9.6%を占めており、前年に比べ5件減少している。また、車両火災による損害額は93万8千円で、前年に比べ413万9千円減少しており、過去5年間で最も低くなっている。

車両火災による死者及び負傷者は発生していない。

焼損台数は13台で、内訳は貨物車1台、乗用車6台、特殊車1台、二輪車5台となっている。

車両火災の現況は、表3-2-1に示すとおりである。

表3-2-1 過去5年間の車両火災の現況

平成	全出火件数 (件)	車両火災件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
17	139	16	11.5	5,492	1	0
18	127	12	9.4	1,626	0	0
19	135	11	8.1	4,156	0	1
20	117	17	14.5	5,077	0	0
21	125	12	9.6	938	0	0

(2) 「走行中」及び「駐車中」とともに6件

平成21年中の車両火災の出火時の状況をみると、「走行中」が6件、「駐車中」が6件となっている。

(3) 出火原因

ア 走行中の出火原因1位は「排気管」

走行中に出火した6件の出火原因をみると、「排気管」が3件、「たばこ」が1件、「不明」が2件となっている。

イ 駐車中の出火原因1位は「放火」

駐車中に出火した6件の出火原因をみると、「放火・放火の疑い」が5件、「不明」が1件となっている。

ウ 「放火」は夜間から朝方に発生

「放火・放火の疑い」による出火原因5件の時間帯別発生状況をみると、21時台から5時台までにすべて発生している。

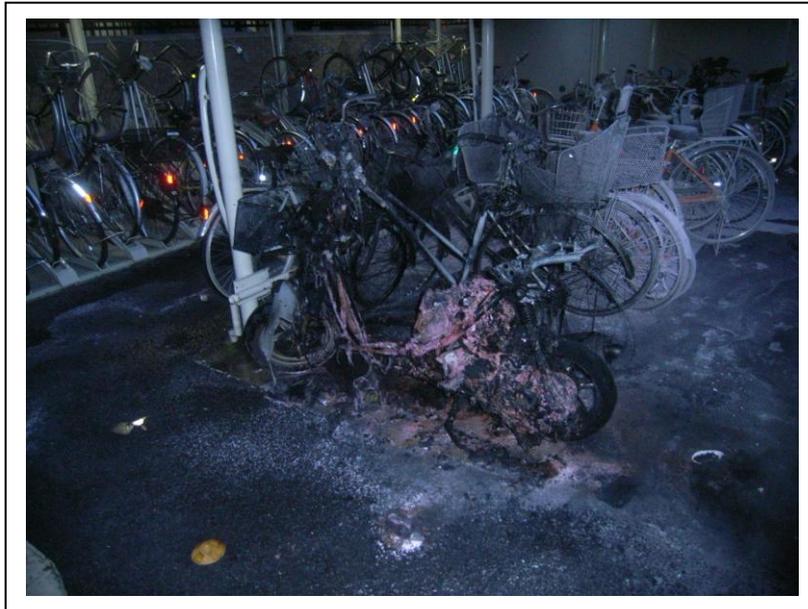
(4) 車両火災の出火事例

出火事例 1 「駐車中の車両から出火した火災」

り災物件 原動機付自転車

火災概要 本火災は、何者かが何らかの火源を用いて、原動機付自転車に放火したものである。

写真 3 - 2 - 1 「焼損した原動機付自転車の状況」

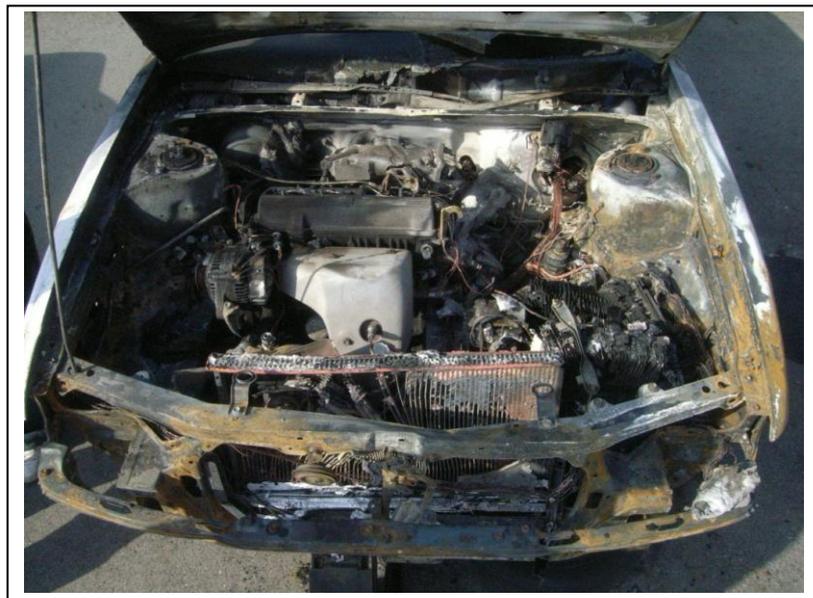


出火事例 2 「走行中の車両から出火した火災」
り災物件 普通乗用車
火災概要 本火災は、何らかの原因によりエンジン
オイルが漏れ、高温となっているエキゾースト
マニホールドに降りかかって、発火した
ものである。

写真 3 - 2 - 2 「車両が炎上している状況」



写真 3 - 2 - 3 「焼損したエンジンルームの状況」



3 その他の火災

(1) 火災の現況

平成21年中のその他の火災の出火件数は50件で、全出火件数の40.0%を占めており、前年に比べ7件増加している。また、その他の火災による損害額は296万7千円で、前年に比べ2億3,851万4千円減少している。

その他の火災の現況は、表3-3-1に示すとおりである。

表3-3-1 過去5年間のその他の火災の現況

平成	全出火件数 (件)	その他の火災件数 (件)	割合 (%)	損害額 (千円)	死者 (人)	負傷者 (人)
17	139	44	31.7	834	0	0
18	127	46	36.2	4,531	1	3
19	135	58	43.0	2,480	1	1
20	117	43	36.8	241,481	0	1
21	125	50	40.0	2,967	3	0

(2) 出火原因の1位は「放火」

平成21年中のその他の火災の出火原因をみると、「放火・放火の疑い」によるものが22件と最も多く、44.0%を占め、前年に比べ6件の増加となっている。次いで、「火遊び」が8件(16.0%)、「たき火」及び「たばこ」がそれぞれ6件(12.0%)となっている。

その他の火災の出火箇所をみると、「敷地内」が17件と最も多く、34.0%を占め、次いで、「公園」が6件(12.0%)、「河川敷」及び「空地」がそれぞれ4件(8.0%)となっている。

平成21年中のその他の火災の出火場所及び出火原因は、表3-3-2に示すとおりである。

表 3 - 3 - 2 出火場所及び出火原因

(単位：件)

出火原因	合 計	出 火 場 所								
		敷 地 内	公 園	河 川 敷	空 地	田 畑	屋 上	ご み 集 積 場	道 路	そ の 他
放 火	22	8	3	0	2	1	0	4	1	3
火 遊 び	8	4	2	1	0	0	1	0	0	0
た き 火	6	0	1	2	1	1	0	0	0	1
た ば こ	6	2	0	1	1	0	0	1	0	1
マッチ・ライター	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
溶接機・溶断機	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他	4	0	0	0	0	1	0	0	1	2
不 明	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	50	17	6	4	4	3	1	5	2	8

(備考)「放火」には、「放火の疑い」を含む。

(3) 焼損物は枯草が40.0%

平成21年中のその他の火災を焼損物件別にみると、「枯草等」が20件と最も多く、40.0%を占め、次いで、「ごみ類等」が14件(28.0%)、「引火性・可燃性物質」が3件(6.0%)、「その他のもの」13件(26.0%)となっている。

(4) 春季・秋季に多い

平成21年中のその他の火災を四季別にみると、春季、秋季に多く発生しており、62.0%を占めている。

四季別のその他の火災件数は、表3-3-3に示すとおりである。

表 3 - 3 - 3 四季別その他の火災件数

年 別 季 別	平成 20 年		平成 21 年	
	件 数 (件)	構 成 比 (%)	件 数 (件)	構 成 比 (%)
春季(3月～5月)	12	27.9	14	28.0
夏季(6月～8月)	14	32.6	9	18.0
秋季(9月～11月)	10	23.2	17	34.0
冬季(12月～2月)	7	16.3	10	20.0
合 計	43	100.0	50	100.0

(備考) 冬季の1月及び2月は、該当年のものである。

(5) 16時から18時に24.0%発生

平成21年中のその他の火災を時間帯別にみると、16時から18時に12件と最も多く発生し、24.0%を占め、次いで、12時から14時に7件(14.0%)となっており、12時から18時の昼間の時間帯に20件(40.0%)発生している。

時間帯別のその他の火災件数は、表3-3-4に示すとおりである。

表 3 - 3 - 4 時間帯別その他の火災件数 (単位：件)

発生時間	0時	2時	4時	6時	8時	10時	12時	14時	16時	18時	20時	22時	不明
	～2時	～4時	～6時	～8時	～10時	～12時	～14時	～16時	～18時	～20時	～22時		
件数	4	0	4	4	5	4	7	1	12	2	2	3	2

(6) その他の火災の出火事例

出火事例1 「放火により出火した火災」

り災物件 ごみ類

火災概要 本火災は、同一地区内で4日間の間に
ごみ集積場及びごみ箱で発生した放火火災で
ある。

写真3-3-1 「ごみ類の焼損状況」



出火事例 2 「たばこにより出火した火災」
り災物件 ごみ類
火災概要 本火災は、可燃ごみの中に完全に消えて
 いないたばこの吸い殻を入れたため、時間
 経過とともに可燃ごみに燃え移り出火した
 ものである。

写真 3 - 3 - 2 「ごみの焼損状況」



写真 3 - 3 - 3 「たばこの状況（白丸内）」

